へ13
2378
182

墨川亭雪麿作
北尾重政画

光琳模様梅略画

前編

文政十二巳丑春
新鐫繪草紙

全六冊

遠 13 2378 182

圓壽堂記

題言

花を踏弥生の頃物へ詣し帰る居路傍に延敷連なる古畳何くれとなく並置はべる高く丁店とろつかぬ舗上ふく風と見當り しる平安堂近松翁が作の心中万年草ゑり予原よりすく欲き折節ふれいたぐちゐ夏と贖ふ此作を宝永五戊子年四月十六日本筑後掾坐ゐて兵行ゐ序新浄瑠璃ゑ大ゐ世ゑ行ゐる今より九百二十二年前の昔ゐ今茲則文亡も相當せゐ故ゐの書本捕とくゐお安貞女之助が事跡を輯録し書肆圓壽堂ゐ与へて来春ゑ新版とゐすめ彼書目のごく世ゐ行せんとせ希ゐのみ然ゑのれども不才わく〻飜案も甚拙し一動もすれば蛇ゐ足を添蛙の声を封るが如き誤とヨヲ〻ゐべし請看官それ是を恕ーのくとらん

文政十二戊子秋稿成
十二巳丑春開市

墨川亭雪麿作

印南野の家老
伊吹艾太夫世嫡
同苗具女之助
同家中
噛合
犬平太

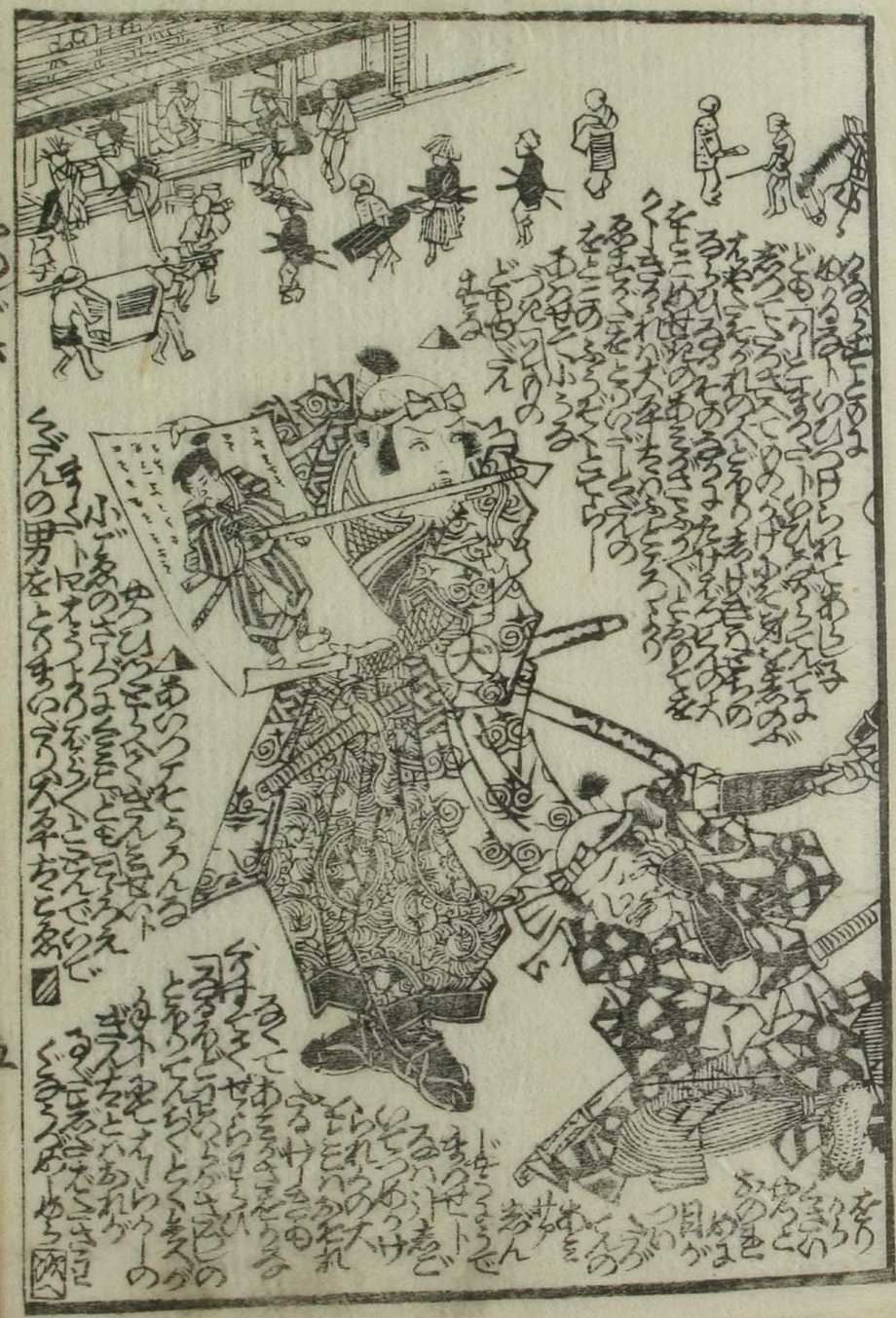
紅風や
室狐
拵女
渋ひ髮
播州
室の
津の
増根
松屋の
雄梅
拵女

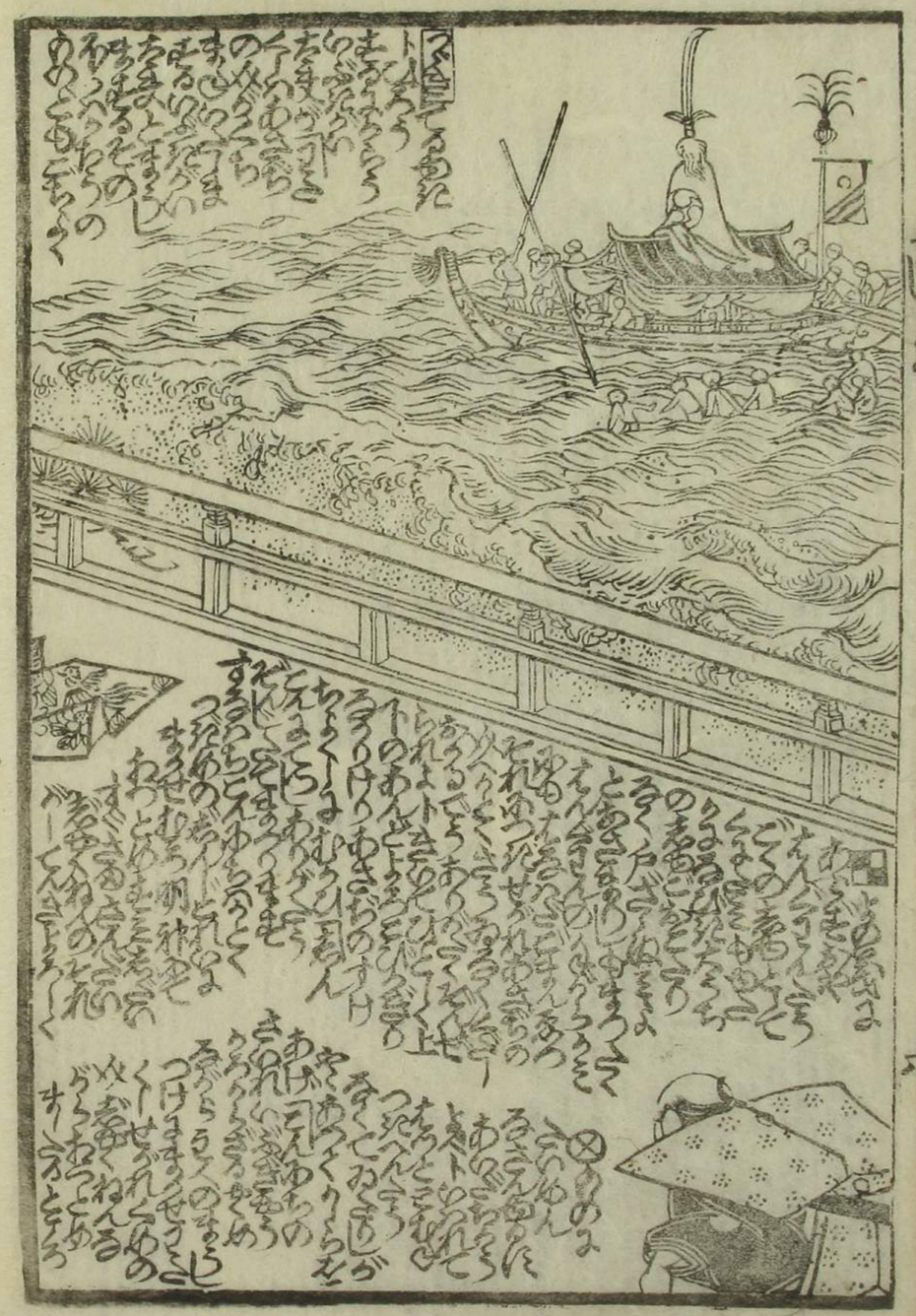
天竺篤兵衛が部下
さらの銀太
篤兵衛が手下
まべらろーの金太
伊吹の家僕
大鳥砂無平

丁傘乃
ひの手助
小蝶
のれ
砂無平が妻 於坂

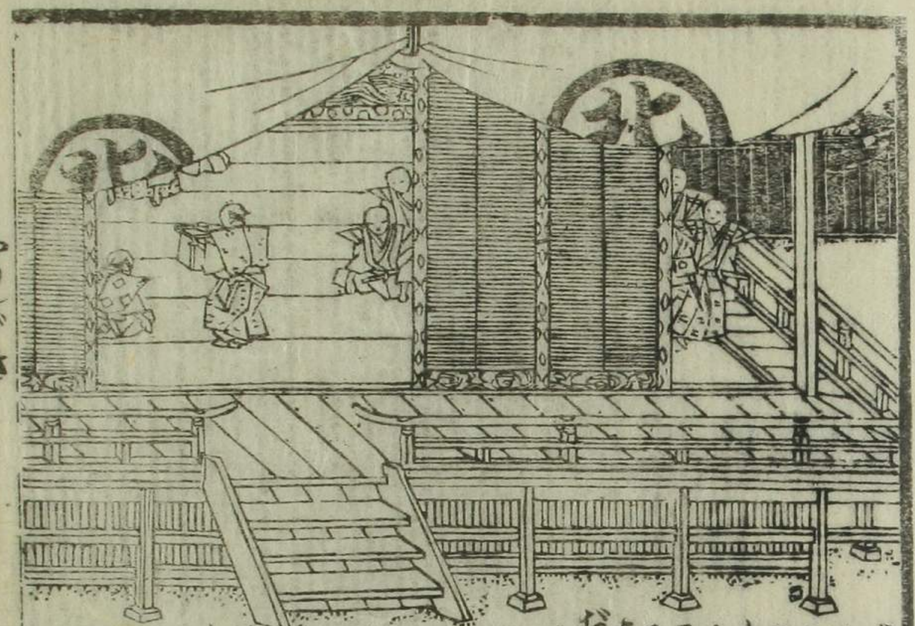
肉襄へも
蓑着て入り
ぬ
隅田左少辨仲汲
実ハ筥兵衛
が弟一坊頓
雷行
艾大夫が妻
敷浪

菖蒲賣
印南野の忠臣
伊吹艾大夫

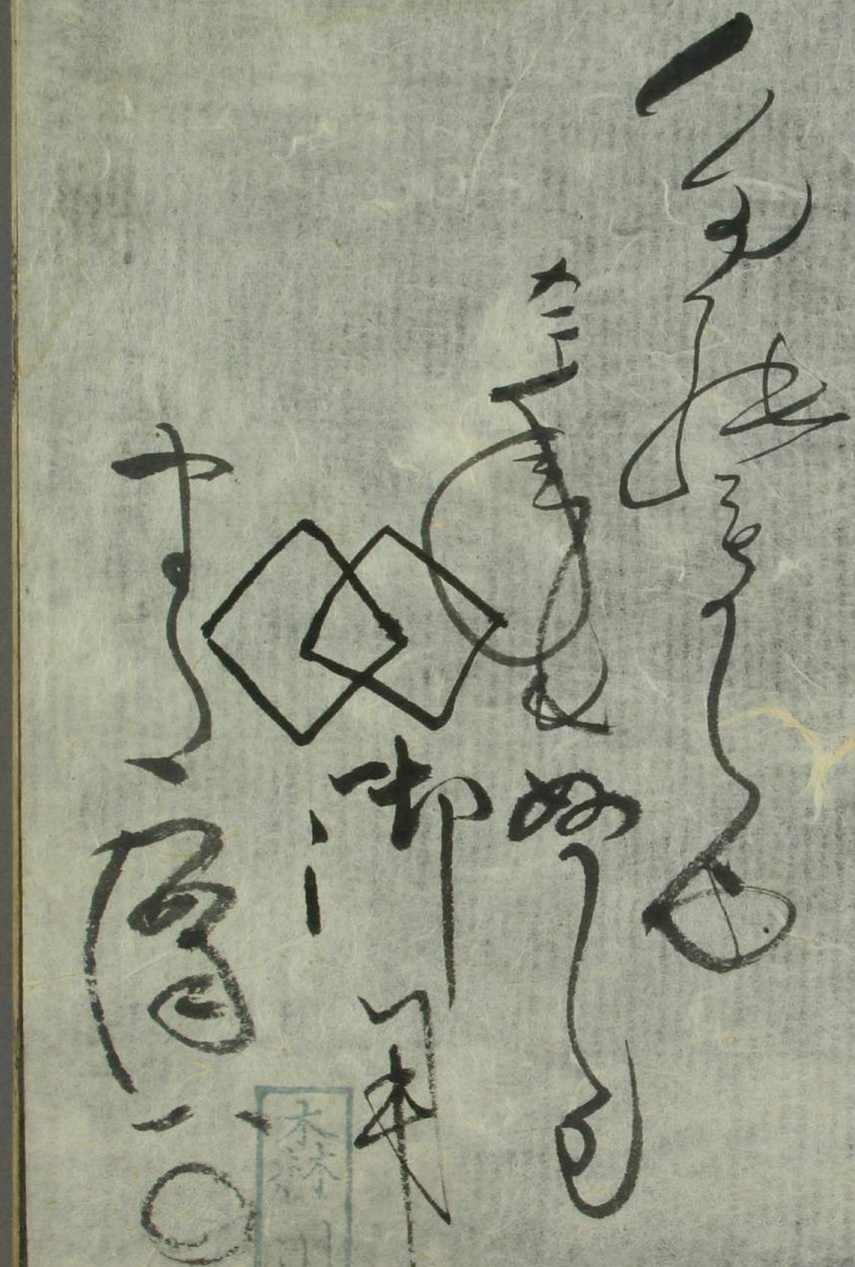




下人
「イヤサ
「ナニそれ
「出
「そうもくろ
「そうやあんまりうまいこと
「そうもくろ
「そうもくろ



重政畫
雪磨作



雪麿作
重政画
文政十二
己丑春
新板
甚
板

雪麿作

光琳模様

春乃墨画

重政画

後編

己丑新板

全六冊

丸屋甚八板

大
坂

波

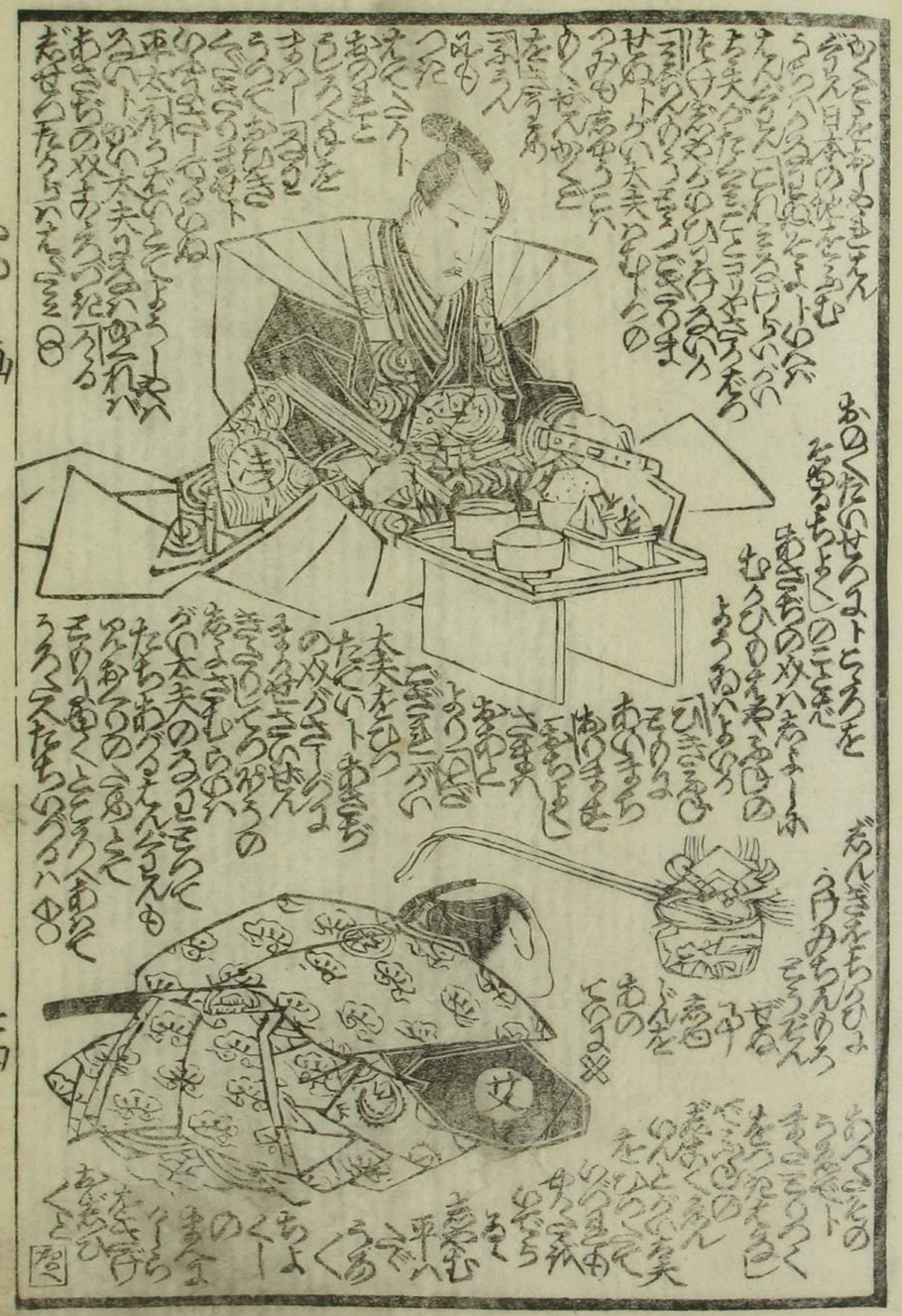
丈
波
判
洗

つぎ
梅
大

十
五

犬
波
丈

梅
才



大
坂
波

女

美艶仙女香

坂
砂

これあるさのあちらは史
ごまとしのもはろ明神
のあんどうさまあり
ぐやくぐまりあいと
ふりぬいとろ
こび
えん
むすめんの
えびこ
とぶーを
ゆきうしで
ざえ孫んやち
ちやトおど
あがりく美だらく
あるさまをゆらめ
あがりらえんぐえん
あや子をえんぐ
ちうひ
たんひ
ゆう
むう
ちう
ゆう
もこ
えんち
ゆう
ゆも
ゆの
ゆの
まる
さなま
うち
ぎうよ
ゆう
ぎうう
ぎうう
ぎう

文政壬巳丑春圓壽堂新版目録

光琳摸様梅畧画六舟　墨川亭雪麿作　北尾重政画

美玄香　年玉上品　徳用　重法両天傘　壱両　美艶仙女香　壱両　賣弘所　坂本氏製

御誂御摺物所　江戸芝神明前三島町　圓壽堂　丸屋甚八版

假名茶話文庫　前帙五冊　山東庵京山作　繪入中本彫刻次第近日發市

曉星五郎　辺藤篤次　繡繪雙白澤後編四冊　尾上菊五郎作　溪齋英泉